

序

藤健一先生には、2015年3月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生の積年のご功績を称え、深い感謝の意を表すため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

藤先生は、1972年3月に立命館大学文学部哲学科心理学専攻をご卒業後、中京大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程に進学され、1974年3月に同課程を修了されました。その後、同大学文学部心理学研究室に1年間勤務された後、1975年4月に立命館大学文学部助手として任用され、以来、助教授、教授として心理学専攻において教育・研究に尽力されました。その間、1998年4月より2000年3月までの間、びわこ・くさつキャンパスでの教養教育を担うべく理工学部に移籍されましたが、40年もの長きにわたる先生のご足跡は、まもなく創設90周年を迎える文学部の歴史に刻み込まれていると申しても過言ではありません。学部教職員から尊敬の念をもって「文学部の生き字引」と称賛されてきた先生は、2008年に『文学部80年史』を編纂する際には、率先して企画・編集にあたられました。また現在、先生が副会長を担われている文学部校友会の設立記念式典（2008年6月）の際には、広小路キャンパス時代に先生が撮影、保存されてきた貴重な8mmフィルムを公開され、多くの参会者から感謝の声を集められました。何事にも几帳面な先生のお人柄の一端をうかがい知ることができた次第です。

ところで、先生がご在任中、文学部は大きな変革期を幾度も経験してきました。まず、1978年4月の広小路から現在の衣笠への移転があげられますが、その際、先生は実務面でその陣頭指揮にあたられました。また、哲学科心理学専攻は、学部改組にともない2001年4月より心理学専攻に、2006年4月からは人文学部心理学専攻に、さらに2012年4月より心理学域心理学専攻へとあわただしくその姿を変えることとなりましたが、先生は、そうしたたび重なる改組を円滑に導かれました。

先生は、教育・研究のみならず行政にも尽力され、数度にわたる心理学専攻の主任をはじめ、文学部学生主事、学部主事、調査委員長、研究科主事、副学部長（大学院・研究担当）を、また全学役職としては総合基礎教育副センター長、教養教育副センター長、大学協議会委員、学校法人立命館評議員など数多くの要職を歴任され、学部・大学院・全学の発展に貢献されてきました。先生の厚いご経験と高い見識が、いかに高く評価されてきたかを物語っていると言えましょう。

一方、先生は、日本心理学会、日本動物心理学会、日本行動分析学会など多くの学会で活躍され、本論集の「主な研究業績」にみるように、主にヒトと動物（ハト）の実験的行動分析学的研究、および心理学における実験装置学・装置史研究の分野で数多くの研究成果を発表されてきました。実験装置を使ってハトの摂食・摂水行動を地道に観察し続けるという先生の真摯なご姿勢は、研究領域を異にする者に対しても、研究者はどうあるべきかを教示してください

ました。

心理学域心理学専攻は2015年度入試をもって学生募集を停止し、2016年4月より同専攻を母体として大阪いばらきキャンパスに新設される総合心理学部へと新たな展開をすることになっています。その重要な節目に、先生がご定年を迎えられることはまことに残念でありませんが、文学部教授会は、永年のご貢献に謝意を表すため、来る4月1日付で先生に名誉教授の称号をお贈りするよう手続きを進めているところです。今後とも、わたくしども後進を見守り、文学部および総合心理学部へのご助言を賜ることができますれば幸いです。

2015年1月25日

立命館大学人文学会会長

文学部長 藤 卷 正 己